

令和6年度

香 芝 市 議 会
行政視察研修報告書



倉敷市 まびふれあい公園

総務建設委員会

1. 概要

香芝市議会 総務建設委員会 県外視察研修（令和6年度）

1. 日 程 令和6年10月15日（火）～10月16日（水）

2. 出席者 （委員長）木下 充啓 （副委員長）中山 武彦

（委 員）中川 廣美 中村 良路 川田 裕

上田井 良二 中谷 一輝 青木 恒子

（随行者）議会総務課長 千葉 常雅

以上 9名

3. 視察地

◆岡山県倉敷市

岡山県倉敷市西中新田640番地

人口：473,828人（令和6年9月30日現在）

面積：356.07km²

◆岡山県総社市

岡山県総社市中央一丁目1番1号

人口：69,641人（令和6年9月30日現在）

面積：211.90km²

4. 視察事項

（1）倉敷市・・・復興防災公園「まびふれあい公園」について

（2）総社市・・・定住人口の増加政策について

本委員会は、令和6年9月議会において上記のとおり派遣を議決され、視察事項のとおり研修を行った。

まず、10月15日の午後に復興防災公園「まびふれあい公園」を訪れ、「まびふれあい公園」の説明を受けた後、質疑等を行った。

翌10月16日には総社市役所を訪れ、「定住人口の増加政策」の説明を受けた後、質疑等を行った。

実施委員は、10月16日の夕刻に帰郷した。

2. 研修内容のまとめ

日 時：令和6年10月15日（火）

視 察 地：岡山県倉敷市

研修内容：「復興防災公園「まびふれあい公園」について」

【倉敷市の概要】

豊かな自然と温暖な気候に恵まれた瀬戸内海に面し、四国から山陰地方へつながる南北の交通軸と、東西に走る山陽道が交差する中国地方の拠点となる人口約48万人の中核都市である。

江戸時代には商人の町、明治時代には繊維産業の町、近年は工業都市、そして文化観光都市として発展してきた。

瀬戸内の穏やかな気候と高梁川がもたらした豊かな大地に恵まれ、農業や漁業も盛んである。白壁の建物や柳並木が美しい倉敷美観地区のある「倉敷地区」をはじめ、瀬戸内海国立公園の美しい内海風景が広がる「児島地区」や西日本有数の工業地帯である「水島地区」、港町として栄えたノスタルジックな町並みを残す「玉島地区」、マスカットやスイートピーの一大生産地である「船穂地区」、静かで美しい竹林の町「真備地区」など、地域によって異なる雰囲気を持つ。



木下委員長挨拶

○復興防災公園「まびふれあい公園」について

【経緯】

平成30年7月豪雨災害からの復興のシンボルとなるべく、堤防が決壊した小田川と高馬川の合流点付近に、「平常時と災害時の両面で活用でき、地域の発展にもつながる公園の整備」をテーマに、「防災教育の場」「住民が川を感じ楽しめる場」「真備の魅力を発信できる場」「災害時の救援活動や一時的な避難の場」の4点を基本方針として整備され、令和6年7月に開園した。

【公園の概要】

- ・種 別・・・地区公園
- ・面 積・・・公園部分 約2.8ha
河川敷部分 約1.7ha
合 計 約4.5ha

◎施設

① 竹のゲート

真備の山並みに調和する大屋根と真備らしい竹の意匠を凝らし、「まなびの部屋」、「防災備蓄倉庫」などを備えた建物（約 500 m²）

② まなびのへや

防災学習などの研修や被災の教訓を伝える資料の展示のほか、災害時には、支援が必要な方も一時的に避難できる場所として利用できる

③ 防災備蓄倉庫

災害時に、約 300 人が一日過ごせる食料や資材の備蓄品を保管している

④ あそびのひろば

芝すべり台やアスレチック遊具、インクルーシブに配慮した複合遊具を設置

⑤ じゃぶじゃぶひろば

小田川から引き込んだ用水路の水を利用した水遊びのできる広場

⑥ ソーラーWi-Fi

災害時にも利用できるようにソーラーWi-Fi環境を備えている

⑦ 防災施設

一時的に避難された方のために、マンホールトイレやかまどベンチ、ソーラー照明を設置



ソーラーWi-Fi



かまどベンチ

[所感]

平成30年7月豪雨災害では、本流の急激な水位上昇で支流の水が逆流する「バックウォーター現象」が起き、堤防が大きく決壊して河川氾濫で一帯が水没したことから、小田川の高梁川への合流点を約4.6km下流へ付け替えるなどの河川の氾濫防止対策が行われたとのことであった。

その上で、小田川を水害原因の場所として避けるのではなく、真備地区を形成する生活環境の一部として受け入れ、「住民が川を感じ楽しめる場」を方針の一つにするなど、「平常時と災害時の両面で活用でき、地域の発展にもつながる公園の整備」の取り組みは、大いに参考になった。

3. 研修内容のまとめ

日 時：令和6年10月16日（水）

視 察 地：岡山県総社市

研修内容：「定住人口の増加政策について」

〔 総社市の概要 〕

岡山県の南西部に位置し、東部は岡山市、南部は倉敷市の2大都市に隣接しており、地域の中央を北から南に岡山県の三大河川のひとつ高梁川が貫流している。年平均気温は16.5℃前後、雨量は1000mm前後で、瀬戸内海特有の温暖、少雨の恵まれた気候である。

総社市は、かつての古代吉備の国の中心として栄えた地域であり、縄文以前から人々が生活していた形跡が見られる。古墳時代には吉備の国の中心地として栄えたことをうかがわせる数多くの古墳が残されている。

飛鳥・奈良時代には、備中の国府も置かれ、国分寺、国分尼寺も配置され、備中の政治・経済・文化の中心地として栄えた。平安時代には備中国内の神々を合祀した総社宮が建てられた。総社市の名称はこれに由来している。

鎌倉時代以降は、地方政治の町から山陽道や高梁川の水運を生かした、門前町、宿場町的性格に様変わりするとともに、豊かな農村地域としても発展した。江戸時代には、岡山藩や足守藩などの複数の藩領や幕府領など複雑な統治形態となっていた。

高度経済成長期の昭和40年代頃からは、県南工業地帯の発展に伴い、宅地開発が進むとともに、その背後地として内陸工業も発展している。近年では、歴史に培われた吉備文化と、高梁川の恵みをはじめとする豊かな自然環境を背景に、住宅都市・学園都市としての発展もみせている。

○定住人口の増加政策について

〔経緯〕

総社市では、自立する総社市の実現に向けて、「子育て王国そうじゃ」による次世代への支援、予約型乗合タクシー「雪舟くん」の運行、障がい者1500人雇用など、支援を必要とする方々への施策、企業誘致の促進による雇用の創出をはじめとした総社市流の各種政策により、雇用が増え、人口の流入が進み、令和2年国勢調査では平成27年から令和2年にかけての人口増加率が3.3%（2,175人増加）で、岡山県内27市町村のうち人口増加率第1位となった。しかしながら近年は人口が減少・横ばいの傾向となっていたため、令和5年度を「人口7万人再挑戦の年」と位置付け、市の人口増加に向け、移住先を検討している人への情報提供や空き家に関する相談などを行う「人口増推進室」を設置するとともに、子育てをしやすい環境を作る「子育て王国そうじゃ」の拡充などを行われた。

[取組等]

◎人口が増えているヒミツ

恵まれた立地	人に優しいまち
○アクセスが強いまち！ ・岡山駅まで電車で30分 倉敷駅まで電車で10分 ・岡山空港まで車で30分 ・総社ICから高速道路で 関西・四国・九州へ ○安全で穏やかな環境 ・地震が少ない！ (100年間で震度4以上は2回のみ) ・晴れの日が多い (降水量1mm未満の日数第1位！) ○豊かな食 ・地元産の安くて新鮮な食材が 簡単に手に入る産直市や地元ス ーパー ・市街地には、スーパーやコンビ ニ、チェーン店などが並び、買 い物に困らない ・パン屋の数が多い！パンわーど 総社	○子育て王国総社 ・積極的な給食支援 (幼稚園給食あり、中学生無償) ・15歳までの医療費が無料 ・市内に5か所ある地域子育て支援 センター ・出産された方へ「出産おめでとう ギフト」の贈呈 ・一貫性のある英語教育が受けられ る「英語特区」 ○安心の医療環境 ・市内の病院・診療所 39院 (小児科 4院、産婦人科 2院、 救急3院 etc) ・搬送可能な急性期病院も20分圏 内に2院 ○市内での雇用創出 ・食品メーカーや物流企業等の 工場がたくさんあり、求人募集 が豊富 ・障がい者1500人雇用 ・「そうじゃ商人応援補助事業」 市内空き店舗の改修費用 最大50万円を補助



研修風景

◎移住支援

(1) お試し住宅

宿泊して総社市での生活を体験できる。(日数：2～14日)

<お試し住宅利用者数>

	R 1	R 2	R 3	R 4	R 5	R 6	合計
延べ利用回数	13	7	10	26	23	17	96
延べ利用人数	29	16	17	66	58	33	219

令和6年9月末現在

(2) アテンド

市の職員がオーダーメイドで市内をアテンドし、理想の暮らしを見つけるお手伝いをする。

<これまでのアテンド者数>

	H29	H30	R 1	R 2	R 3	R 4	R 5	R 6	合計
アテンド件数	56	39	47	75	76	37	34	14	378

令和6年9月末現在

◎区画整理による住宅用地の拡充

人口増の挑戦に立ちはだかる大きな壁 ～都市計画等の規制～

市域の多くが市街化調整区域で、住宅新築、産業立地エリアは限定的となっており、過去5年には、「50戸連たん制度」による市街化調整区域内の自己用住宅の建築数は680件あったが、このうち86%が浸水想定区域による開発制限区域に建築されたものであり、都市計画法の改正により建築できなくなるなど、住宅・土地政策は喫緊の課題となっている。

<香芝市と総社市の比較>

	香芝市	総社市
総人口(2020年)	78,113人	69,030人
うち外国人人口(構成比)	508人(0.7%)	1,593人(2.3%)
面積	2,426ha	21,190ha
うち都市計画区域	同上	14,788ha
うち市街化区域(都市計画区域における構成比)	1,243.9ha (51.3%)	938.1ha (6.3%)
うち市街化調整区域(都市計画区域における構成比)	1,184.1ha (48.7%)	13,849.9ha (93.7%)

「50戸連たん制度」とは

本来は住宅などの建築を認められていない区域（市街化調整区域）において55m以内ごとに50戸以上の住宅などが連なっているという条件を満たせば、当該土地を住宅用地として開発許可を申請できるというもの。

都市計画法の改正により、令和4年4月1日から市街化調整区域の災害ハザードエリアで50戸連たん制度を使って家を建てることができなくなった。令和6年4月1日以降は、災害ハザードエリアがさらに拡大された。

◎令和6年度開始 総額6億円「人口増パッケージ」

人口を増やして地域を元気に！3つの視点から10の施策をメニュー化！

(1) 結婚・出産支援 ～素敵な出会いと出産の喜びを分かち合う～

①婚活イベント

②そうじゃ出産おめでとうギフト

(2) 子育て支援 ～子育て王国そうじゃのブランドを更に高める～

③中学校の給食費無償化

④幼稚園、小学校の給食費の物価高騰分支援（据置き）

⑤放課後児童クラブの拡充

⑥認可外保育施設への助成

(3) 地域力の向上 ～地域・市民を大切にし、

「郷土愛」を醸成する～

⑦空き家対策パッケージ

⑧自由枠交付金制度の見直し

⑨道づくり予算（生活道の補修等）

⑩効果的な魅力発信「シティプロモーション」



総社市役所 議場

[所感]

総社市は、香芝市と同じく緑豊かでありながら都市部に近く交通アクセスの良い住環境もあり人口増加を続けていたが、近年は停滞または減少に転じたことから、令和6年度には人口7万人を目指して、結婚・出産支援、子育て支援、地域力の向上の3分野を柱とした総額6億円の「人口増パッケージ」の運用を開始するなど、子育て支援などの人口増加政策を積極的に推進して人口流入を促し、持続可能な発展を目指されていた。

総社市のこれらの取り組みは、行政規模も近く人口増による持続可能な発展を目指す本市にとって大いに参考になった。

報告者 総務建設委員会委員長 木下充啓